

一般質問

一般質問
亀甲 義明
(公明党)

ギャンブル依存症対策

9月定例会では9月20日と21日の2日間、7名の議員が市政に関する様々な質問を展開しました。

問 携しながら取り組みを進めていく。また、相談に対応する職員のスキルアップにも対応していく。

答 依存症から一人で立ち直るのは難しく日常生活に寄り添い支える人たちが欠かせない。アルコール、薬物依存症への対応は。

問 障がい福祉課が対応窓口であり、相談があった場合は自助団体等へ話し、保健所、精神保健福祉センター等と連携し対応を行っている。



対応窓口（障がい福祉課）

問 地域や自助グループ、他の団体等との連携は大切だと思うが、今後、市としてどのように考えているのか。

答 様々な団体が存在していることは我々も把握しているが、その団体がどういう活動をしているのか情報収集を行う必要があると考えている。

問 基本法の中には、医療提供、相談体制、社会復帰の整備など民間団体の活動に対する支援等など、基本的施策がうたわれているが、全てを市が単独で整備するのは難しい。今後、国、県と連携して進めてほしい。特に相談体制の整備をしっかりとやってほしいが相談窓口の体制は。

答 ギャンブル等依存症は、特定の行為や過程に必要以上に熱中し、のめり込んでしまうプロセスへの依存で見つけにくい。相談内容を注意深く聞く中で、依存症であるか断片的なものを見つけそこから掘り起こし連携し対応することが必要であると考えている。

問 アルコールやギャンブル、ゲーム等の依存症は、適切な量、金額、時間を超えなければ依存症に向かうことはない。適切とはどの程度か。市が先

答 啓発は必要な行為であると考えており、十分精査し理解した中で効果的な啓発を検討する。

教育施設の環境整備及び放課後の子ども居場所づくり

問 小中学校の普通教室へのクーラー設置の進捗状況は。

答 来年の夏に間に合わせることを最優先事項とし、どのような手法が可能か、現在調査を進めている。

問 夏休みが終わり2学期からの学校の暑さ対策は。

答 6月に幼稚園10園のリズム室にエアコン設置が完了した。小中学校22校は、クラス数に応じ各校1台から3台、仮設のエアコンを2学期から使えるよう、レンタルし緊急対応した。

問 エアコン導入の今後のスケジュールは。

答 詳しい時期や予算、工法等は、現在実施している調査結果がまとまり次第決定し、臨時議会をお願いしたい。

問 リース方式でいくのであれば、国、県の補助金は現時

点では使えない。市としてはどのように進められるのか。

答 現時点では、補助金も検討しつつ、来年の夏に間に合わせることを最優先事項と捉え準備を進めている。

問 来年夏のエアコン導入に向け教育長の考えは。

答 確かな財源が見込めない中、どの方法でいくか苦慮しているが一日も早く実現したい。

問 幼稚園の保育室に対してのクーラー設置はどのように考えているのか。

答 今年度、リズム室にエアコン設置をしたが、まずは小中学校の普通教室へのエアコン設置を急がしてほしい。

問 放課後児童クラブは余裕教室を利用するケースが多く、特に最近では幼稚園を使用することが多くなってきた。小学校に通う児童が放課後に過ごすための場所で、本来、通っている小学校にあることが安全安心ではあると考えるが。

答 通学している小学校の中にあることが一番安全で、便利に利用できることは認識している。今後は、できるだけ学校の余裕教室などを活用し設置できるよう調整していく。

問 生活に支障を来すギャンブル等依存症への対策を総合的に推進するギャンブル等依存症対策基本法が成立したことに對し市の認識は。

答 ギャンブル等依存症対策基本法が7月6日に制定され今後、法に対応する準備は必要かと考える。

問 やめたくてもやめられないこれがギャンブル依存症。厚生労働省の調査で、依存症が疑われる人は1年間で約70万人、依存症が疑われる経験をした人は約320万人と言われているが市の対策は。

答 今後、国や県が策定する計画をもとに、関係機関と連